

「2-2-5」根岸芳郎 アクリル、綿布 2002年 247×185cm



- ■講演会:12月21日(土)午後2時 「現代水彩の美と可能性」 福井泰民(当館主任学芸員)
- ■ギャラリートーク:1月8日(水)午後2時 福井泰民(当館主任学芸員)

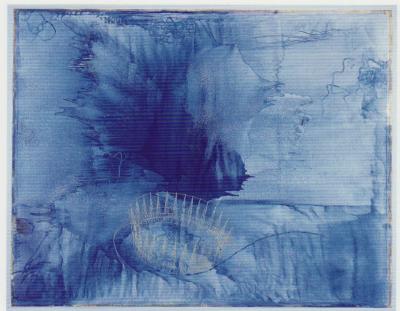
渋谷区立松濤美術館 The Shoto Museum of Art 東京都渋谷区松濤2-14-14 〒150-0046 TEL.03-3465-9421 FAX.03-3460-6366

# 現代日本の水彩表現

にじみ、ぼかし、重ね、線

2002年12月10日(火)~2003年1月26日(日)

- ◎開館時間:午前9時—午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◎休館日:12月16日(月)、24日(火)/12月29日(日)-1月3日(金)/1月6日(月)、14日(火)、20日(月)
- ◎入館料:一般300円(240円)/小中学生100円(80円) ※()内は10人以上の団体料金/65才以上の方、および障害者の方は無料/土曜日は小中学生無料



「象の檻」山口啓介 水溶性絵具、紙 1995年 210×271cm



「ヴィナス風の肖像」池田満寿夫 水彩・フロッタージュ、紙 1975年 45.5×34.7㎝ 池田満寿夫美術館所蔵



「照 応」李禹煥 水彩、紙 2001年 58×78cm



「ベンガルの刺繍」カジ・ギャスディン 透明水彩、紙 1980年 38.0×37.5cm



「昼すぎ」野見山焼治 不透明水彩 (グワッシュ)、フェルトペン他、紙 1992年 113.5×85.0cm 福岡県立美術館所蔵

渋谷区立松濤美術館はこれまで、「アメリカの水彩画 ホイッスラーからワイエスまで」、「大正・昭和の水彩画 蒼原会の画家を中心に」など水彩画の展覧会を開いてまいりました。現代の水彩画を試みるアーティストには従来の水彩画の枠と常識に捉われない斬新な作品を創作する人たちがいます。今回はそれらの新しい傾向の水彩表現を紹介します。

にじみや余白の美を紙上に追求した従来の透明水彩の伝統に対して、戦後、油絵具と水彩絵具の両特質を兼ね備えた速乾性でかつ 堅牢なアクリル樹脂系の水溶性絵具が開発され、現在、日本をはじめ世界の作家に愛用されるようになりました。透明水彩と不透明水彩(グワッシュ)そしてアクリル絵具などの使用により、現代の水彩画はかつてない程の多様な表現と技法を獲得するようになったのです。

紙や綿布に描かれた水彩画には、にじみ、ぽかし、たらしこみ、かすれ、散らし、ストローク、渇筆、色彩の重ね、ぬぐい、削り、透明感、不透明感、塗り残し、余白など水彩ならではの無限の味わいと表現と技法が多々見られます。優れた水彩画は油彩画のタブロー表現と同格の芸術作品と見なすべきものであり、高度のテクニックが要求されます。近年、日本においても水彩画を愛好する人々が増えていますが、それにもかかわらず、水彩画の展覧会が非常に少ないことが指摘されています。

本展は水彩画家、油彩画家、立体造形作家、版画家など幅広いジャンルのアーティストの中で、透明水彩、グワッシュ、アクリル絵具を使用した水彩表現を試みる約18名の作家による約90点の水彩画を選び、現代水彩画の造形的実験とその多彩な美の魅力を紹介します。

### ■主な出品予定作家

野見山暁治、山田正亮、李禹煥、池田満寿夫、榎倉康二、若林奮、根岸芳郎、山口啓介、カジ・ギャスディン、小池隆英、難波田史男、丸山直文、杉山尚子、大浦こころ、舟橋淳司、土屋文明、青柳光枝、その他

# ■講演会

12月21日(土)午後2時『現代水彩の美と可能性』福井泰民(当館主任学芸員)

### ■ギャラリートーク

1月8日(水)午後2時 福井泰民(当館主任学芸員)

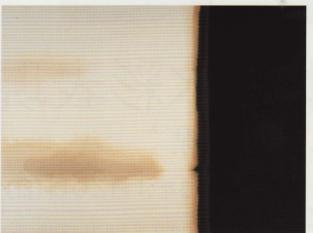
# **■**美術映画会

12月23日(月) 午後2時 [抽象表現主義] 近代絵画とモダニズムシリーズ [三千院・醍醐寺] 京都の魅力 美のすべてシリーズ

1月13日(月) 午後2時 [マルセル・デュシャン] 近代絵画とモダニズムシリーズ [金閣寺・銀閣寺] 京都の魅力 美のすべてシリーズ

## ■美術相談

12月22日(日) 午後2時~4時 茂登山東一郎(油彩)、舟橋淳司(水彩) 1月12日(日) 午後2時~4時 内山懋(油彩)、新出紀久雄(水彩)



「干渉(STORY-No.50)」 榎倉康二 アクリル、綿布 1992年 219×291cm



「1999 Color P. No.118」山田正亮 透明水彩、紙 1999年



- JR 「渋谷駅」下車 徒歩15分
- ●京王井の頭線「神泉駅」下車 徒歩5分